

王子マテリア株式会社名寄工場生産品集約の再考を求める決議

昭和 34 (1959) 年 4 月 22 日、当時の名寄商工会議所から名寄市議会議長に対し陳情書が提出されております。それは「王子製紙工場誘致に関する陳情書」と銘打たれ、文面で「市制施行以来急速なる躍進をしておりますものの、繁栄発展の基軸となる産業においては商業の発展に比し、工業は何等見るべきものが無く、市当局をはじめ吾々商工人の最も遺憾とするところであります。この時に当たり、王子製紙の龐大 (ぼうだい) なる新工場が話題になり、商工業は千載一遇の好機として一大関心を寄せ、その誘致を熱望し居る次第です」と訴え、まさに名寄市の経済界の核として王子製紙誘致に市民総意で取り組みました。

残念ながら、王子製紙第三工場の誘致は実現しませんでした。翌昭和 35 (1960) 年に王子マテリア名寄工場の前身である天塩川製紙名寄工場が起工され、以来、設備の増設更新等を重ね、名称は「北陽製紙」「王子板紙」そして平成 24 (2012) 年から「王子マテリア名寄工場」として、常に名寄市の経済界をリードし、まさに市民とともに歩む名寄を代表する企業であり続けています。

しかし、今年 10 月 4 日、令和 3 (2021) 年 9 月に 2 号マシンを停止、王子製紙苫小牧工場へ移設し、翌令和 4 (2022) 年 4 月稼働、3 号マシンは令和 3 (2021) 年 12 月停機の通知を受け、市内経済の根幹を揺るがす事態が懸念されています。

市内では、再考を求める署名活動がかつてない規模で繰り広げられ、当然ながら名寄市議会も賛同団体に名を連ね、この間、議員一人ひとりが署名活動にも参画しました。

市民一人ひとりが健やかに過ごせる都市 (まち) とすべく、市と議会が一体となって総合計画、都市計画マスタープラン、そして立地適正化計画を議決し、道北のみならず、北海道、さらには国内に誇れる名寄を創造すべく取り組む際、大きな柱の 1 本となっただけなのが経済界はもとより、市民生活を根幹で支えていただいている王子マテリア名寄工場であります。

本市議会といたしましては、王子マテリア株式会社の種々の事情は理解しながらも、生産品集約の影響が計り知れないことに鑑み、さらには、これまで 60 年間ともに歩んできたパートナーとして、名寄工場生産品集約の再考を求めます。

以上、決議する。

令和元年 12 月 20 日

名 寄 市 議 会